

第 91 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた  
ソフトバンク株式会社への追加質問及び回答  
(移動通信分野における接続料等と利用者料金との関係の検証関係)

問 1 営業費相当額の算出方法について、直近 5 年間の平均値により算出することに一定の合理性があるとしても、直近 3 年間の平均値又は 6 年間の平均値により算出することについても同様に一定の合理性があると考えられる。3 年間の平均値や 6 年間の平均値を用いるのではなく、5 年間の平均値を用いることがより合理的と考える場合、その根拠を論理的に説明していただきたい。

(佐藤構成員)

(ソフトバンク回答)

- 次の理由から、5 年間の平均値を用いることが合理的であると考えます。
- ① 一断面での検証とならないよう、一時的に生じる特有の要素を排除する必要があり、極力長期での平均値を利用することが適切であること
- ② 営業費相当額の算出に用いる接続会計は、第二種指定電気通信設備接続会計規則上、「接続会計財務諸表の作成に用いた帳簿その他の会計記録を毎事業年度経過後五年間保存」することになっており、利用可能な会計データとして 5 年分が保証されていること
- ③ 固定通信分野におけるスタックテストにおいても、営業費相当額は従来から、いずれかの期間での 5 年平均の値を採用しており、移動通信分野のみ異なる整理とする理由が無いこと

問2 「Y!mobileシンプル2Mプランを検証すればLINEMO  
ベストプランVの検証は不要と考える」という考え方について、仮に、  
Y!mobileシンプル2Mの検証において、利用者料金による収入と  
接続料等の費用の差分が営業費相当額を下回る結果が出た場合、改めてL  
INEMOを検証対象としてスタックテストを実施するというものでよい  
のか。

(佐藤構成員)

(ソフトバンク回答)

- 仮に、Y!mobileシンプル2Mの検証において、利用者料金による  
収入と接続料等の費用の差分が営業費相当額を下回る結果が出た場合は、改  
めてLINEMOを検証対象としてスタックテストを実施する考えです。